

学習の流れ（対話者用）

学習の流れ	シナリオ
<p>開会 開会あいさつ 3分</p> <p>学習の経緯を説明する 3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集落の担当者の開会あいさつ（集落ごとでお任せします） <p>【 対話者 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同推協役員と各地区の推進員さんが集まる人権講座を開催しました。 ・その中で、実際に起きた差別発言事象を朗読劇にし、それをもとに、差別につながる考え方に気づくこと、差別をなくすために自分にできることについて学習を深めました。 ・今年度は各集落で小地域懇談会を開催し、同じ朗読劇をもとに、日頃の行動を振り返り、差別解消に向けてどう行動すればよいのかについて参加者の皆さんと一緒に学び、考えていきたいと思います。
<p>6分経過 朗読劇に入る 8分 (学習用)シナリオを配布する</p> <p>配役について紹介後、 朗読劇を行う Aさん・Bさん・Cさん・ナレーターの札を下げてもら</p>	<p>【 集落の担当者 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、これから配布したシナリオの朗読劇をやっていただきたいと思います。 ・配役をお願いした方は、前に出てください。 (配役の方の自己紹介) <p>・配役 Aさん (さん) Bさん (さん) Cさん (さん) ナレーター (さん)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは朗読劇をお願いします。
<p>14分経過 話し合いについての説明 3分</p> <p>3つの設問について 考えていく *あなたに相談に来たという ことをしっかり伝える</p>	<p>【 集落の担当者 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。(配役の方に拍手) それでは話し合いに入りたいと思います。 ここからは、対話者の方をお願いします。 <p>【 対話者 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布したシナリオを見てください。 集まりで先ほどのようなやり取りがあった後、 Cさんがあなたのところに来ました。 これから、ここにあげている3つの質問について考えていきたい と思います。(読み上げる)

<p>17分経過 話し合いに入る 40分 (1問に10分ずつくらいで話し合いと発表をする) *発表してもらった意見に対しての批判はしない。 「そのように思われるんですね。」「〇〇という意見がありました。」 というように対応すること。</p> <p>Q1、では、参加者が差別(発言)に対してどう捉えているか(差別認識)について考える</p> <p>Q2、では、被差別当事者と自分との関わり方について考える</p> <p>Q3、では、差別事象に対してどう対応するのかについて考える</p>	<p>【対話者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それではひとつずつ考えていきたいと思います。考えて(お隣同士で・何人かで相談して)ご意見を言っていたきたいと思います。 話し合われた内容にこれは正しいというようなことはありませんので、自由に感じたことを話してください。(必ず伝えること) <p>Q1、あなたはこの話をきいてどう思いましたか？ 話し合ってください。 (発言が出ないようなら、シナリオの中で具体的な投げかけをする) 例) Aさんの発言をどう思いますか？ 例) なぜAさんはこんな発言をしたのでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、出てきた意見を発表してください。 <p>Q2、あなたは、Cさんにどう返事をしますか？ 話し合ってください。 (発言がない場合、具体的に投げかける) 例) Cさんはどんな気持ちだと言っていましたか？ 例) Cさんの願いは何でしたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、出てきた意見を発表してください。 <p>Q3、あなたは、相談を受けて、この後どうしますか？ 話し合ってください。 例) なぜ、Cさんはあなたに相談に来たのでしょうか？ 例) 何かできることはないでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、出てきた意見を発表してください。
<p>57分経過 まとめをする 15分</p>	<p>【集落の担当者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いありがとうございました。 それでは、学習のまとめに入ります。よろしくお願いします。 <p>【対話者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この出来事は、Aさんの部落に対する差別意識に基づいた発言に、Bさんが「そんなことを言ったらいけん」と否定したのに、周りにいた他の人が何も行動しなかったことで、Cさんがしんどい思いをしたという出来事でした。 ・差別に対して、その場の雰囲気肯定する雰囲気なのか、否定する

<p>*差別事象が起きる時、その場にいる人がどう行動するのかによって、差別が肯定されるのか否定されるのかが変わることを押さえる</p> <p>*部落差別だけでなく、日常の中にも差別につながる出来事は存在することを確認する</p> <p>*差別事象を見聞きしたとき、そのままにせず、どこかに知らせることが、差別をなくすことにつながることを伝える</p> <p>*差別に気づき、行動できる力を身につけるために、学習会に参加することが大切であることを確認する</p>	<p>雰囲気なのかによって、その場が差別をそのままにしてしまうのか、なくそうとするのか、大きく変わってきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 部落問題だけでなく、私たちは日頃いろいろな場面でやり取りする中で、誰かがしんどい思いをするような発言が出た時、どう行動しているでしょうか？ • 例えば、集落の会合で意見した人に対して、「女が利口げにものを言うな」とか、「若造が偉そうに何言ようるだ」というような発言があった時、あなたはどうされますか？ こんな発言をきいた経験はありませんか？ • このような時、まずは「あっ」と発言のおかしさに気づく意識を身につけることが大切です。 そのためにはこのような学習の場に参加して学ぶことが大切です。 • そして、「今のはいけんじゃないか」「ほんとだなあ。いけんなんだなあ。」と言い合える場になれば、Cさんのようにしんどい思いをせず、当事者となる人も安心できるのではないかと思います。 • さっきの会合の場面でも、「おかしいな」とか「あんなことはいけんでな」と思っている、誰も何もしなければ、言われた人はしんどい思いを抱えたままになってしまうし、言った人は自分の発言の間違いに気づくことができません。 • その結果、その出来事はあってもいいことにされてしまい、しんどい思いをする人はいつまでもそのまま置かれてしまうことになります。 • 直接その場で「それはいけんで。」と言うことはできなくても、例えば公民館や市の職員に「こんなことがあった」と話しに行くとか、人権センターに相談に行くとか、ひとりでは無理でも、身近な人と一緒に行くなど、自分にできることはあるのではないのでしょうか。 • 「おかしい」と思ったら、決してそのままにしない、誰かに伝えるという行動が大切です。 • いつ、どこで、誰がCさんのような当事者になるかわかりません。 • そのためにも、小地域懇談会に参加していただき、おかしいことに気づく力を身につける学習を続けていっていただきたいと思います。 <p>【 集落の担当者 】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 以上で今日の学習を終わりたいと思います。 皆さん、お疲れさまでした。
72分経過 終了	終了